

## 令和3年度社会教育委員等研修会 参加レポート

氏名 田中 宏和

- 1 期日：令和3年6月17日（木）
- 2 会場：新潟市黒崎市民会館
- 3 対象：社会教育委員、生涯学習・社会教育行政関係者
- 4 子どもの体験活動について

子どもの体験活動についての話題が多く報告されました。地域活動としての体験活動。学校の授業としての体験活動などいろいろありました。トークセッションで「中学校現場での体験活動」を発言させていただいたので、そのことについてまとめたものをレポートとして報告します。

新潟市の小中学校では「総合的な学習の時間」等を使って体験活動を行っています。

地域と学校パートナーシップ事業を活用し、地域人材を活用した体験活動を実施し、生徒の育成を地域総がかりで行う体制ができています。しかし、毎年同じことの繰り返しなど形骸化したりしている活動もあります。そこで、コミュニティスクール制度を導入し、学校の教育ビジョンを承認し、本当に必要な体験活動なのか再検討したりして、地域と学校が同じ視点で生徒の資質・能力を育むことが来年度スタートします。

体験活動で子どもはどんな力がつくのかを考えると、「自己有用感」が身につく「自己肯定感」が高まると考えています。

新潟市は年末にすべての小中学生の「学習生活アンケート調査」が実施され、そして、結果が集計され平均値が示されます。各学校はその数値を学校評価等に活用しています。

アンケート項目に「自分にはよいところがある」「学校以外の地域の大人に褒められ認められうれしいと感じる」があります。私は学校運営にこの項目をととても注意して見えています。この項目が「自己肯定感」「自己有用感」の参考になるからです。地域の方々と一緒に行う地域貢献活動が充実するとこの項目の肯定的回答が高くなります。

地域貢献活動など体験活動を充実させることが生徒に自信をつけさせる一つの方法なんだなと思いました。